

私の目指す弁理士像

No.67

会員 宮口 聡

弁理士になって、3年が経過した。長いようで短かった3年間である。この3年間に実に多くのことが起きた。弁理士になって少しは独身貴族の楽しみでも味わおうかと思っていたら即結婚。これから親孝行でもするかと思っていたら母他界。企業内弁理士として10年ぐらいはやっていこうかなと思っていたら2年目にして独立。いつまでもスリムなボディでと思っていたら体重の大幅増加（合格祝賀会での食い過ぎが伏線となっている）。

どれも予想外の展開である。全てが計画通りに行くのが理想かも知れないが、なかなかそうも行かない。願ってもないチャンスに出くわすこともあれば、とんでもないトラブルに巻き込まれることもある。

しかし、それだからこそ、人生はおもしろい。特に独立してから、そう感じるようになった。企業に勤めているときは、所定の時間に会社へ行き、所定の時間に帰宅する。仕事がオーバーフローになっても周りが助けしてくれる。風邪で休んでも有給休暇がとれる。土日は完全休日でハッピーホリデー。これはこれで企業人としてのメリットである。いわば無難な生き方と言えよう。

他方、独立してからは、仕事が集中するときもあれば暇になるときもある。オーバーフローになっても自己責任。何時に帰宅できるか分からない。風邪で休めば儲けなし。土日もウィークデーも区別なし。

このように生活のリズムも大きく変わった。ただ、確実に言えることは、後者の方が自分に合っているということだ。毎日毎日どういう展開になるか予想がつかないので、生活安定性に欠け、どうしても波乱に富んでくるが、他面、新たな発見、新たな感動に出逢うことも多くなった。また、困った場面に遭遇したときにそれを一つ一つ切り抜けていく楽しさといったものも味わえるようになった。更には、仕事の成果が現れたときの充実感も直に味わえる。その結果、ますます仕事に精が出る。

ただ、一人でこなせる仕事量には限界がある。いずれその限界が訪れるであろう。そのとき、所員を募集して事務所を拡大していくか、自分一人でこなせる範囲内にセーブしていくか、いずれを選択するかが今後の課題である。先輩弁理士から見ればとるに足らない悩みかも知れないが、先が見えない以上、人生における大きな分岐点になるような気がしてならない。

ただ、自分一人でこなせる範囲内にセーブしていくなら、現状とさほど変わらない。幸か不幸か冒険心が沸き起こり易い性格のため、事務所拡大の方向にどうしても傾いてしまうが、事務所経営には、弁理士試験や明細書書きで培われる能力とはまた別の特別な才能が必要とされる。果たして自分には人を雇っていただけの度量と才能があるのだろうか、悩みだすと先へは進めない。とにかく、やってみないと分からないじゃないか。本稿を書いているうちにそういう気持ちになった。しかし、熱い気持ちだけで事はうまく運ばないことぐらい十分わかっている。実務面、人格面の両方をもっともっと磨かなければ、誰も自分についてこないだろう。

ということで、今年度は、自分一人で何をどこまで遂行することができるのか、真の限界を発見することを目標に頑張ってみたいと思う。あまり先のことを考えても、どうせ予想外の展開になるのだから考えないことにする。

「今を一生懸命に生きる」

それでよいのではなからうか。

以上、事務所を運営されている先輩弁理士から見ればとるに足らないことで悩んでいる一弁理士の「私の目指す弁理士像」であった。